〔新續古今和歌集十羈旅〕いとまなく侍し時、親にぐしてあづまに下けるに、三河の八橋といふ所にてよみ侍ける、　堀河院中宮上總

八橋を行人ごとにとひ見ばやくもでに誰を戀わたるぞと

〔平治物語三〕經宗惟方被處遠流事同被召返事

去程ニ彼人々ノ隱謀次第ニ顯レテ、○中略師仲卿モ終遁ルヽ所ナクシテ、播磨中將盛憲ノ配所、室ノ八島ヘゾ被遣ケル、伏見源中納言三河ノ八橋ヲ渡ルトテ、

夢ニダニ角テ三河ノ八橋ヲ渡ルベシトハ思ハザリシヲ、ト讀レタリシヲ、上皇聞召テ、哀ニ被思召ケレバ、召返セトゾ仰ナリケル、誠ニ詠歌ノ德ナルベシ、

〔義經記二〕しやなわう殿げんぶくの事

きのふまではしやなわう殿、けふはさまの九郎よしつねと名をかへて、あつたの宮をすぎ、なにとなるみのしほひがた、三河の國八はしを打こえて、遠江の國はまなのはしをうちながめてとほらせ給ひけり、

〔源平盛衰記三十九〕重衡關東下向附長光寺事

十目年○元暦元年三月本三位中將重衡卿ハ、兵衞佐○源頼朝依被申請、梶原平三景時ニ相具シテ關東ヘ下向、○中略在原業平ガキツヽ馴ツヽト詠ケル、三川國八橋ニモ著シカバ、蜘手ニ物ヲヤ思ラン、

〔千載和歌集十八誹諧〕あづまのかたにまかりけるに、八はしにてよめる、　道因法師

八橋の渡りに今日もとまるかな爰に住べき身かはと思へど

〔うたいねの記〕みかはの國八はしといふところをみれば、これも昔にはあらずなりぬるにや、はしのたゞひとつぞみゆる、かきつばたおほかる所と聞しかども、あたりの草もみなかれたるころなればにや、それかとみゆる草木もなし、なりひらのあそんの、はるゝきぬるとなげきけん